



**描写**とは、書かれていることそのものを指しますが、できごとや人物、場面の様子などをくわしくしたり、分かりやすくしたりするための工夫された描写もたくさんあります。

描写されたものは、作者が見たものや感じたことを文章に書き表したものになります。

ですから、物語を読むときには描写をしつかりとらえて読むこと。そして、その描写から言葉や文章に含まれている**人物の気持ちや場面のふんいき**などを感じ取り、**想像しながら味わう**ことが必要になります。

くわしくしたり、分かりやすくするために工夫された描写にはつぎのようなものがあります。



- 行動を表す言葉
- 様子を表す言葉
- 音をあらわす言葉
- 慣用句
- 色を使った表現
- 比ゆを使った表現

やってみよう

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよつにやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしびきのよつにどどびさって、ちいさいじがすつとつるのでした。するととつぜん、後ろで、ドタドタ、ザッと、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさってきました。子ぎつねはびっくりして、雪の中に転がるようにして十メートルも向こうへにげました。なんだろうと思ってふり返ってみましたが、何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのでした。まだ、えだとえだの間から、白いきぬ糸のよつに雪がこぼれていました。

(新美南吉)「てぶくろを買いた」(より)

ここでは、**比ゆを使った表現**に注目しましょう。

比ゆにはいくつか種類がありますが、あるものに例えて「まるで」のように(よつだ)という書き方で、その様子がよく分かるようにしたものです。

お母さんの笑顔は、まるで太陽のようにあたたかい。  
バケツの水をひっくり返したような大雨  
くんはぼくらの前を風のように走り抜けた。

例えることでその様子がよく分かりますね。みなさんも作文や日記の中でよく使っている表現の工夫ですね。

比ゆを使った表現を次の文に合うよつに、上の文から抜き出して書きましよう。

のよつにやわらかい雪

のよつな粉雪

ちいさいじが

のよつに雪がこぼれて  
いました。

やってみよう

「ああ、そう式だ。」と、ごんは思いました。  
「兵十のうちのだれかが死んだんだろう。」

お昼をすぎると、ごんは、村の墓地へ行って、六じ  
ぞうさんのかげにかくれていました。いいお天気で、  
遠くの向こうには、アおしろの屋根がわらが光ってい  
ます。墓地地には、ひがんばなが、赤いきれのように、  
さき続いています。と、村の方から、カーン、カー  
ンと、かねが鳴ってきました。そう式の出る合図です。  
やがて、白い着物を着たそう列の者たちがやってく  
るのが、ちらちら見え始めました。イ話し声も近くな  
りました。そう列は墓地へ入ってきました。人々が通  
ったあとには、ウひがんばながふみおられていまし  
た。

ごんは、のび上がってみました。兵十が、白いかみ  
しもを着けて、いはいをささげています。いつもは、  
赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、エ今日は、  
何だかしおれていました。

(新美南吉「ごんぎつね」より)

上の文章を読んで次の問いに答えましょう。

【1】音を表す言葉(擬音語)を文中から書き抜  
きましょう。

また、その音が意味するものが何なのか、  
文中から抜き出して書きましょう。

音を表す言葉

この音が意味するもの

【2】次のことが分かる文は線ア、エのどれですか。  
ふさわしいと思う文の記号を書きましょう。

そう列の者たちがごんの方に近づいている。

元気がなくしている兵十

【3】じぞうさんのかげから、ごんが、見ている  
ものを、順に書き出しましょう。

物語での描写は、語り手  
や登場人物の視点から、場  
面の様子や登場人物の気  
持ちを言葉や文にしたも  
のです。  
ここでは、五感(目・耳・  
鼻・口・手など)を使った  
描写から、場面の様子や登  
場人物の気持ちを感じわ  
いながら読んでみましょう。



どんな		何・だれ	
① 光っている		おしろの屋根がわら	
②		ひがんばな	
③		そう列の者たち	
④		ひがんばな	
⑤ 白いかみしもを着けて、いはいをささ げている		(兵十の) 顔	
⑥			

やってみよう

【1】 の部分から、ごんの行動を順を追って抜き出し、次の文を完成させましょう。

かごの中からいわしを

[ ]

もと来た方へ

[ ]

うちの中へいわしを

[ ]

あなへ向かって

[ ]

【2】 —線Aの部分から、ごんのどんな気持ちが想像できますか。ふさわしいもの一つ をつけまじょう。

\* 兵十を困らせよう。

( )

\* いわし屋につぐないをしよう。

( )

\* もつと兵十を喜ばせよう。

( )

【3】「ごんが「これはしまった」と思ったのはなぜですか。ふさわしいもの一つ をつけまじょう。

\* 自分のしたことで兵十に迷惑をかけたから ( )

\* 兵十がいわしを食べてはらをこわしたから ( )

\* 兵十はいわしよりもつなぎがすぎだったから ( )

【4】 —線イの部分のごんの行動は、【1】の行動と比べると気持ちの変化が見られます。ごんの行動のどの部分に違いがみられますか。違いのみられる部分を丸でかこみまじょう。

「ごんはこう思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。その次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきてきました。」

(前略)

いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちのの中へ持って入りました。ごんはそのすき間に、かごの中から、五、六ぴきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしました。そして、兵十のうちのうちら口から、うちの中へいわしを投げ込んで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十が、まだ、いどの所で麦をといでいるのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。

① 次の日には、ごんは、山でくりをどつさり拾って、それをかかえて、兵十のうちへ行きました。うちら口からのぞいてみますと、兵十は、昼飯を食べかけて、茶わんを持ったまま、ぼんやりと考える中でいました。変なことには、兵十のほつぺたに、かすりきずが付いています。どうしたんだろうと、ごんが思っていますと、兵十がひとり言を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんかを、おれのうちへほうりこんでいったんだろう。おかげで、おれは、ぬす人と思われて、いわし屋のやつに、ひどい目にあわされた。」

と、ぶつぶつ言っています。

ごんは、「これはいました」と思いました。

「かわいそつに、兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あんなきずまで付けられたのか。」

ごんは「こう思いながら、そつと物置の方へ回って、その入り口に、くりを置いて帰りました。」

次の日も、次の日も、ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持ってきてきました。